

固定電話・I P 電話の競争状況について

平成 1 7 年 1 1 月 1 日
日本テレコム株式会社

移動体・インターネット等、多様な手段での通信が進むものと考えられる

- 加入電話トラヒックの減少はＩＰ電話や移動体電話への移行だけでは説明できない
→ メール・メッセンジャー利用の影響

ただし、お客様はシチュエーションに応じて通信手段を使い分けている

- 代替ではなく、相互補完（完全な乗換えを行うユーザーはわずか）
- 事業者も多様なユーザーニーズに対応する商品を展開

また、将来の予測には不確実性が伴う

- 変化の早い電気通信市場では、将来を展望することに意義がある
- しかし、将来予測を誤った場合には、競争を阻害する可能性もある

- 固定電話 移動体電話、固定電話 インターネット等のモード間競争だけでなく、モード内競争も市場を発展させる重要なファクター
- 将来予測は重要だが、将来予測に基づく制度設計により、競争を阻害することがないように、その時々現状分析による見直しが必要

加入市場には、他市場とは異なる特殊性が存在

現状ではお客様にとって不可欠な基本インフラ

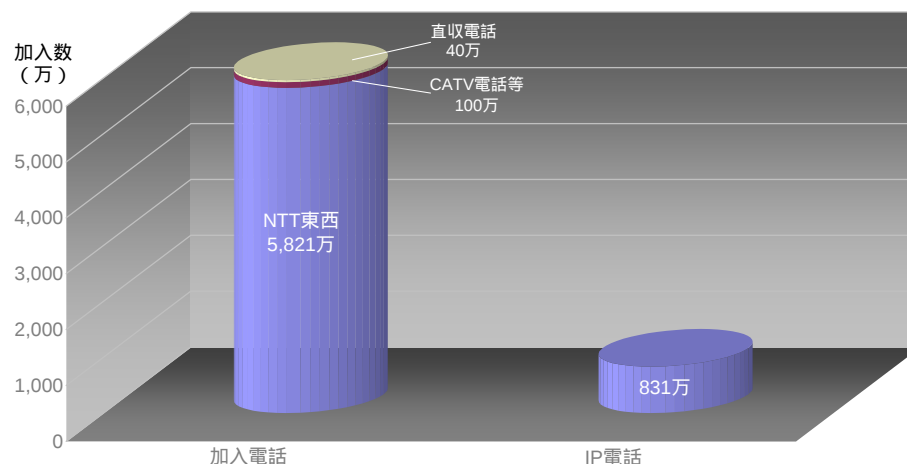
- 保守対応・利用できるサービスの違い、競争事業者への切り替え時の手順等がお客様に非常に大きな影響を与える

競争が始まったばかりで、歴史的経緯による構造的な独占性が非常に高い市場

- 独占的リソース（カネ、設備、人材、情報、ブランド）を活用するメリットが大きい

- 固定電話加入数（2004年度末）

【出典】総務省報道発表資料（2005年10月14日）



- 上記のような特殊性ゆえに他市場では問題とならないことが障壁となる
- 特殊性を勘案し、実施細目の項目に加え、次項以降の視点での分析が必要

(1) 加入サービスの市場支配力が、加入・通話サービス市場に与える影響

切り替えに不可欠な情報の開示の問題が競争に与える影響

- 市場支配的事業者は把握しているが、他事業者がお客様から取得することが事実上困難な情報
 - (例) クレジット認証端末・セキュリティー端末用のパケットサービスの詳細情報
 - (例) 代表組みのハント順・ダイヤルインの番号送出方法・桁数・付加サービスなど詳細情報
 - (例) ADSLの利用状況（法人において総務部等電話を管理する部門が把握していない場合）
 - (例) HR（HL）アダプタ設置情報
- 市場支配的事業者も把握していないため、競争事業者が事実上取得不可能な情報
 - (例) ガス・水道会社の保守のノーリングの利用情報
 - (例) 110番・119番号直接通報装置（逆信利用）設置情報

歴史的経緯による独占的リソースの活用が競争に与える影響

- (例) 市場支配的事業者のグループ間でのリソースの活用が競争に与える影響
- (例) 1XY番号による顧客サポート

(2) 加入者線設備の市場支配力が、加入・通話サービス市場に与える影響

手続処理の内外無差別原則が確実に担保されているかが競争に与える影響

工事・保守対応条件の非対称性が競争に与える影響

(例) 開通までの工事期間の差

(例) 加入者線区間での保守対応情報の差

(3) 加入電話の市場支配力がIP電話に与える影響

加入電話の独占的リソースの活用が競争に与える影響

- NTT東西の0AB-J IP電話サービスについて、加入電話の独占的リソース（カネ、設備・人材・情報・ブランド）を利用できる特殊性を鑑み、以下の分析が必要
 - 活用業務の認可条件事項が競争に対し有効に機能しているかどうか
(例) 加入電話・INS 64の顧客情報の利用の禁止
 - 認可条件以外に競争に影響を与える要因があるか
(例) 1XY番号による顧客獲得
(例) ブランドネーム等の利用

(4) ブロードバンド市場の競争状況が、IP電話・加入電話市場に与える影響

F T T Hの競争状況がOAB-J IP電話や加入電話の競争に与える影響

- 戸建向けF T T H市場は、独占・複占の構造（平成16年度競争評価）
- OAB-J IP電話は、現状F T T Hのアプリケーションとして提供されている
- F T T H市場の拡大に伴い、OAB-J IP電話が基本インフラとして加入電話を代替した場合、F T T Hの市場支配力が加入電話に大きな影響を与える可能性あり

A D S Lと直収電話サービスとの重畳の状況が競争に与える影響

- 1,300万加入のA D S L市場におけるメジャープレイヤーのサービスと加入電話との重畳の可否は、基本インフラである加入電話におけるお客様の利便性に大きく影響